

関川の動物

ほ乳類・両生類・は虫類

関川の河川敷は、災害を防止するために整備されています。そのため、河川敷の幅が広くなく、常に生息している動物はあまり多くありません。

見つけることの出来る動物類のほとんどは、人家近くの山や、水田にもよく見られる種類です。その中で、ノウサギは、多くすんでいて、姿を見るチャンスが多い動物の一つです。また、上越大橋のあたりには、ヨシ草地に囲まれた小さな樹林地があります。この中にある池は、関川にすんでいる、ほとんどの動物が利用しています。水ぎわの泥地や橋のまわりの地面が柔らかいところでは、ほ乳類の足跡を見つけることができます。

鳥類

関川は、河川改修が行われているので、人の手によって整備された河原が広がっています。河原には丈の低い草地が多く、水ぎわにはヨシが生えていて、ヒバリやオオヨシキリが多く見られます。川岸には砂や泥地が少ないため、シギやチドリ類はあまり見られません。そのような中で、関川の大きな特徴としては、川岸や中州にサギ類が多いことがあげられ、水辺で魚を捕まえる様子がよく見られます。

昆虫類

関川の河川敷は、環境に変化が見られず、草地が大変多いことが、大きな特徴の一つです。そのため、草地にすんでいるバッタ類が、たくさん見られます。なかでも、夏から秋にかけては、鳴く虫が目立ち、いろんな鳴き声を聞くことができます。

魚類

関川の下流部は、川幅も広く、流れが緩やかです。春日山橋のあたりまで海水があがってくる感潮域とよばれるところで、汽水魚・海水魚がたくさんみつかっています。